

“わ”情報ぎやらりー

TEL(078)743-8101

FAX(078)743-8103

神戸市シルバーカレッジ 社会還元センター

グループ“わ”情報誌編集部

くらしの歩み環境を振り返り…見渡して…そして!

暮らしの環境調査部会 (E部会) 横田 穰

E部会では多様な環境を対象に、経験と学習の成果をどのような調査の形で社会に還元できるか、と模索しながらの毎日である。

かつて、中学生・高校生の環境学習の解説書として「最新環境用語集」(環境一般・大気・気象・水など17分野)を1998年に作成。1999年に改訂版を神戸市内の公立の中学校・高校および図書館などに約200部を寄贈、その他は“グループ「わ」”において随時頒布している。

また、1998年には全国トポ市民サミット神戸大会の記念誌として「しあわせの村の自然」(村内の施設および自然歩道コースの案内、動植物の解説等の解説書)を日本財団の援助を得て発行、来村者や各種団体に多数配布した。

このほか、垂水区の一地域のゴミ収集状況の実態調査に協力してきた。

◇

現在、取り組んでいるテーマにはつぎのようなものがある。

①家庭生ごみ堆肥化の実用的手法

[長期にわたって地域で実施されている手法やデータ等を集大成する]

②くらしのなかの環境教育

[地域のくらしに対応して学校(小～中～高校)での環境教育の推移]

③障害者・高齢者の生活対象用品におけるバリアフリーの調査

[用具・商品・設備…等、色彩調和なども配慮して調査し、改善提言]

④高齢者のための4群法による安全献立

[高齢者のための必要カロリー並びに喉通りのよい安全献立の食材の簡易選定法]

◇

このほか、下記のテーマが考えられる。

①環境活動の生産性(なすべきことは分かっているが、なぜ進まないのか)

②生活文化の変遷(江戸時代～近代の食分化/あそびの文化/道具の文化/その他…それぞれの移り変わり)

③音楽・楽音と生体リズム(生物・植物の楽音に対する反応など)

◇

以上、E部会が取り組んでいる現況を紹介させていただきましたが、上記のテーマあるいはその他のテーマで協働参加いただける方をお待ちしております。

暮らしの環境部会の取組み (E部会) ……1	佐藤和夫氏(元パンジの会) をしのんで ……6
運営委員会だより (第7回/第8回) ……2・3	『くすのき賞』をいただいて ……7
ハイ!事務局です/表彰のお知らせ ……3	“わ”情報誌編集部からのお知らせ ……8
外国人との忘年懇親会 (D部会) ……4・5	編集後記 ……8

【運営委員会だより】

●平成11年度第7回運営委員会
12月17日 LL準備室

(1) 部会の活動

(1) 生活文化部会 (AB部会)

指導：折り紙・唱歌・生け花・ペーパーフ
ラワー・習字・詩吟

来村者サービス：煎茶・抹茶

音楽等：三味線演奏・ナツメロ。

明生園へのボランティア開始。

(2) 外国人支援・交流部会(D部会)

外国人26名(9か国)を交えて忘年懇親会開
催、王麗芳氏(台湾)から義援金の謝辞。

(3) 福祉部会(G部会)

カーボランティア：活動4名および介助活
動。

(2) 地区の活動

(1) 東灘区：介護保健シンポジウムに出席。

(2) 中央区：書道・唱歌・絵画指導・医薬代 理受取。

協の浜特養”ケアポート神戸”からの依頼
は出来る事から始める。

(3) 長田区：社協のボランティア講座・意見 交換会に参加。

(4) 須磨区：須磨海岸清掃。

(5) 垂水区：「垂水の将来像」の講演会開催、 舞子駅周辺の清掃(月1回)・区主催清掃 キャンペーンに参加、舞子ボランティアガ イド1820件(11月)、1049件(12月)

(6) 西区：園芸・陶芸・ワープロ・歌とゲー ム・バレーボール・着付等の指導。

(7) 北区：有馬温泉ボランティアガイド実施 (金・土・日)。

(3) 活動資金等

(1) 川重シルバー基金助成金申請。

(2) ○阪神淡路大震災復興基金申請：須磨区 ○ボランティア活動助成金申請：中央区 兵庫区、須磨区、西区、AB部会

○木口基金助成金申請：中島、浦上、
胤艸で検討。

(3) 学園祭実行委員会からの寄付金

学園祭実行委員会から、介護支援基金(介
護保健適用外の人、カレッジ卒業生への介
護支援)として40万円、“わ”活動資金
として4万5千円。

日新信用金庫に口座を新設。

(4) ”事業部会”新設について

”わ”の財政確保のため、事業部会新設を
考える。

(4) 平成12年度カレッジ入試ボランティア

2月3日～9日、学生募集願書受付等。

主に”わ”運営委員が対応。

(5) 4期生への入会のすすめ(第2回)

1月20日(木)各コースホームルームにて。

(6) イベント計画

(1)平成12年度は”わ”会員と在校生との
結束の交流会として、屋内外でスポーツや
教室フォーラム等行う。

(2)平成13年度のイベントについてはプロ
ジェクトチームをつくる。

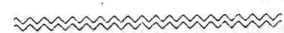
①神戸市が計画の復興イベントへの参画。

②国連のボランティア元年のイベント。

(7) その他

(1)平成12年度、新運営委員候補者推薦委
員会については6名程度を考える。

(2)地区委員の交代は3月末日迄に報告。



●平成11年度第8回運営委員会

1月28日 諏訪山荘

◆開会に先立ち、福原相談役から「高齢者
の生活文化伝承の大切さ等」についてあい
さつあり。

◆議 題

1. SCボランティアセンターとの交流

SCのボランティアセンター(以下ボラセ
ン)の新役員と談合、相互の交流深厚を約
束。

2. 部会・地区の活動報告

各委員からそれぞれ概要報告。さらにD部会から4月のニュースポーツ交流会予算化要請、F部会から地区委員への情報送付希望・情報網活発化・情報誌表紙を部会や地区のPR使用・情報誌の名称変更等説明。

3. 財源確保等

1) 助成金申請・交付等

(1) 木口基金：ニュースポーツ交流イベントに30万円申請。

(2) 長寿社会福祉基金：ニュースポーツを各区に推進・用具購入等に145万円申請。

(3) 各区のボランティア活動助成金の交付：中央区2万円・兵庫区のパンジーの会・須磨区2万円

(4) 阪神大震災復興基金：中央区10万円交付・須磨区5万円申請

★5人以上のグループとして区ボラセンに登録、ボラセンとの意志疎通が大切

★各区の助成金交付一覧表を作成する

2) 卒業アルバム斡旋：3年生ホームルーム(3月1日)時に配布。

3) 新入学者へのグッズ(マーク入りポロシャツ)販売を計画。

4. 予定業務

)平成12年度入試ボランティア：主に運営委員で対応(2月3日~9日)。

5. イベント実施計画

平成13年度：2001年1月17日~9月30日
神戸市復興記念イベント『テーマ花と光』に参画したい。

★イベントに関する提案を望む。

6. 定期総会の日程

5月17日(水)。時間帯はSCボラセンと調整。

7. その他

1) 平成12年度新運営委員候補推薦委員会：企画委員5名(松井、宮城、中島、浦上横田)・AB部会藤原・C部会吉田・長田地区橋本ら8名により構成。

2) 介護支援基金(学園新委員会からの附)の取扱：大変責任が重い。勉強会から始めて、在校生の参加を得て研究していく。

以上

ハイ!! 事務局です

事務局と呼ぶのは、堅苦しいですね。

要するに、グループ"わ"会員の連絡処、雑務片付け処です。

シルバーカレッジ2階交流サロン
毎週火・金、AM10:30~PM4:00
でんわ専用：743-8101

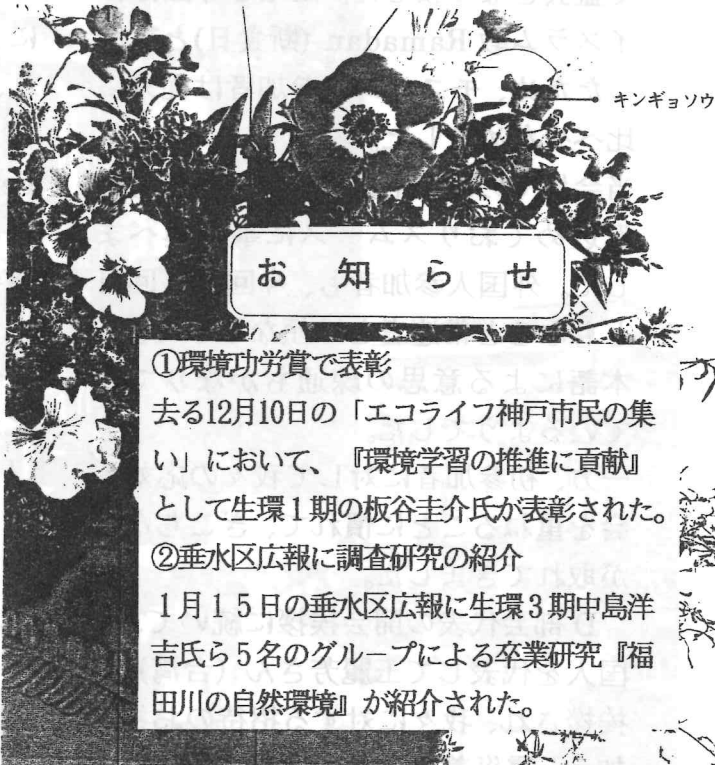
気が向いたら、ぶらりとお立ち寄り下さい。

お電話も待っています。

今、事務局の一番の悩みは、会員の皆様との連絡方法です。

ボランティアの依頼がきた時、だれか参加してほしいと思う時、簡単に連絡を取ることができません。

しあわせの村から、ノロシを上げたい気持ちです。皆様のお知恵拝借。お願いします。



お知らせ

①環境功労賞で表彰
去る12月10日の「エコライフ神戸市民の集い」において、『環境学習の推進に貢献』として生環1期の板谷圭介氏が表彰された。

②垂水区広報に調査研究の紹介
1月15日の垂水区広報に生環3期中島洋吉氏ら5名のグループによる卒業研究『福田川の自然環境』が紹介された。

外国人との忘年懇親会の開催

外国人支援・交流部会(D部会)

和田 敬介

師走とはいえ、暖かで快晴の平成11年12月12日(日曜日)、阪急六甲駅近くの神戸学生青年センターで、私たち外国人支援・交流部会(D部会)は外国人との忘年懇親会を開きました。

夏には「国際高齢者年」と「しあわせの村開村10周年記念」行事協賛のローンボウルス大会などのスポーツにも参加し、外国人との交流・懇親をはかりました。今回はそれに続く集会でした。

当日は、D部会の27名に加え、在神戸の留学生を主体に東アジアを中心に9ヶ国26名の参加があり、過去最大で盛会となりました。ただし今回は、イスラム教Ramadan(断食日)と重なったため、モスリムの参加者は従来に比べ少なめでした。

当会場での開催も2回目で、要領も呑み込めておりスムーズに事を運べました。外国人参加者も、今回で5回目ともなると常連者とは顔なじみで、日本語による意思の疎通もかなりできているようでした。

一方、初参加者に対して我々の対応も会を重ねるごとに慣れて、ぎこちなさが取れてきました。

D部会代表の開会挨拶に続いて、外国人を代表して玉麗芳さん(台湾)が挨拶され、我々に対する招待のお礼に加え、震災義捐金への謝辞を述べられ

ました。これに加えて台湾側より高級茶の寄贈がありました。これは参加者全員に等分のおすそ分けとしました。つぎに、前回集会時に話題に出た留学生に出身国の話をして頂く件を早速実現し、今回はフィリピンの女性Jovelle Fernandez博士(ジョベル・ヘルナンデス)より自国の紹介がありました。

国土面積、人口、言語、政治、経済等の全般事情を講演され、ビデオによる観光中心の紹介もありました。さらにフィリピンの言語(タガログ語)で日常会話の第一歩の数語を黒板に書いて発声練習をして頂きました。非常に上手な日本語でうまく話を進められ、フィリピンが身近に感じられるひとときをもつことができました。Fernandez博士に改めて感謝申し上げるとともに、引き続き出身国紹介を機会があればやって行きたいと思いました。

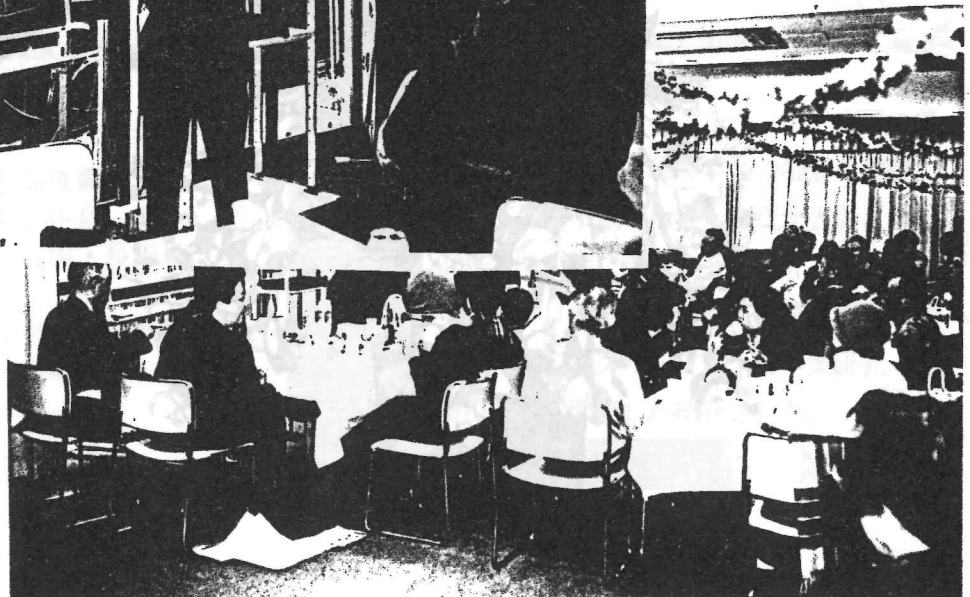
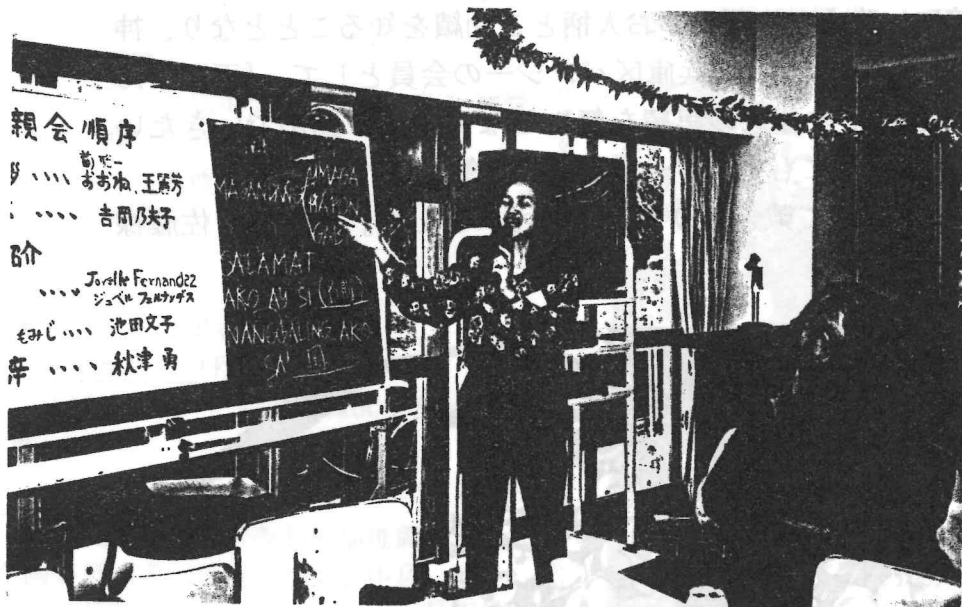
会合ではいつも日本の歌を外国人にお教えしています。今回は「もみじ」。「あきのゆうひに てるやまもみじ……」を練習ののち斉唱しました。歌詞は英訳し意味を理解してもらい、日本語歌詞にローマ字でふりを付けました。楽譜には、奈良の寺院のまっかに紅葉するもみじのカラー写真を貼り美しさを強調しました。神戸在住の



冬への紅葉の移り変わりを美しい景色としてとらえており、歌うことを楽しんでいました。

準備段階では約4時間のプログラム配分や進行をどのようにするか、頭を悩まし心配もいたしました。然し、会が始まれば全員参加型となり、会話も

弾み和気あいあいのうちにアツという間に時間が流れて行きました。今回も、参加者全員より「非常に良かった」とのコメントがあり、満足して家路についてもらったことを、私たちD部会一同大いに喜び、今後の活動にさらに自信を深めることができました。



佐藤和夫氏を偲んで

グループ”わ”副代表
兵庫区パンジーの会副会長
宮城 智子

敬愛する佐藤和夫氏は、福祉コミュニティコースのⅠ期生として、パンジーの会会長として、また地区の民生委員、神戸市青少年青少年育成委員長などの公務をも立派に果たされ、さる一月十六日逝去されました。誠に惜しい方を失い、私どもは残念でありませんが、在りし日の功績の一端をご報告させていただきます。

特に印象に残りますのは大震災直後の働きであります。最寄の夢野小学校へ飛び込み、断水のトイレの汚物処理を一身に引き受け、誰もが、自宅の大変な時、家族のために水汲みなど、非常事態であったのも拘わらず、一週間以上の泊まり込みで、校長先生、教頭先生の片腕として働かれたことは、有名なお話です。奥様・お嬢さまからは大顰蹙を買ったと容易に想像ができます。何故？。彼はそれ程に子供たちを愛し、人間愛の強い人で、多分じっとして居られなかったに違いないと思われます。何度か一緒にボランティア活動をしました。手不足の時には奥様も応援してくださり、助けて貰いました。

昨年春から腰痛に悩まされながらパンジーの会会長として先頭に立って働かれ、十一月十四日から入院を余儀なくされ、しかし回復されてまた一緒に活動したいと念じ、祈って居りましたのに、悔しい思いで一杯です。

通夜式、告別式には、故人を偲ぶ人たちで会場は溢れ、厚生大臣・全国民生委員会・神戸市長の弔辞に、改めて佐藤氏のお人柄とご功績を知ることとなり、神戸市シルバーカレッジ・グループ”わ”兵庫区パンジーの会員として、「再び学んで他のために」を実行された佐藤氏の実績を無にしないように励んでいきたいものと思ひますし、みなさんにもアピールしたいと筆を取りました。

短い期間でしたが、学ばせて戴きありがとうございました。最後に、佐藤様の魂の平安を祈ります。

合掌





『くすのき賞』をいただいて…

兵庫区ボランティア「さわやか」
宮城 智子

昨年十二月十六日に兵庫県からグループ「さわやか」に『くすのき賞』を、兵庫県公館にて受賞しました。

兵庫県くすのき賞とは、「高齢者への友愛訪問などのボランティア活動を通じ、すこやかな社会づくりに貢献」という功績だそうです。

「さわやか」のプロフィール

- ・設立：平成七年八月
- ・活動：兵庫区湊町と兵庫区御崎町の仮設への友愛訪問を通じ、貝塚市立第三中学校へボランティア活動に関しての講演に行ったのをきっかけに、中学生の来神ボランティアが始まり、中学校のボランティア活動にも貢献でき、現在も復興住宅への友愛訪問活動を続けている。
- ・メンバー：85才から40才代（1名）の8名（男性1名）。うち3名がガン入院手術の経験をしながらも、仲間同士で助け合って現在8名全員で都合をつけ合って活動を継続している。

8名うち2名はシルバーカレッジ”わ”のメンバーで、林篤子（Ⅲ期福祉）

・宮城智子（Ⅱ期音楽）です。

以上、地味で目立たない活動ですが、これが、県の人目に留まり推薦をしていただいたと、感謝し励みとし、これからもできる範囲で活動を続けていく所存です。

グループ“わ”情報誌編集部からのお知らせ

◇なにかと案じられた2000年!ではありましたが穏やかにお迎えのことと存じます。

◇さて、1月21日、グループ“わ”情報誌編集部のミーティングをし、さまざまな事柄について話し合い、次のことを取り決めることができました。

1. 基本的には2ヶ月に1回の発刊を目標として取り組む。
2. 運営委員・地区委員諸氏には、情報委員を兼ねていただき、地区で活躍するメンバーとの情報のパイプ役としての活動を、願います。

なお、この件は1月28日の運営委員会で全委員〔運営委員・企画委員・地区委員〕に説明し、了解済みである。

3. グループメンバーが“わ”の活動を知り一体感を育むため記事内容に本部・事務局、運営委員会、企画委員会などの活動欄をとの提案があった。
4. ボランティアグループ“わ”の「キーマン」と成るべく、楽しく・面白く・活気に溢れた情報誌の発行を心がける。
5. 情報誌の名称は「グループ“わ”情報誌編集部」とする。それにもない情報誌の「logo mark」をすこし模様替え。

以上のようなことが確認されました。

グループメンバーの皆様から多くの投稿をお待ちしております。

どうぞ本年もよろしく願いいたします。

編集部

編集後記

◇日差しは『春』のイメージ。やはり『お水取り』が過ぎないと、ぼかぼかと穏やかなそんな日は望めそうもないのだろうか…。

◇記念すべき2000年の1号発刊を感謝いたします。

“わ”グループの活動の活力源に・面白く・楽しくとは編集部員の望むところす!!!。

ので、ここ一番“わ”グループメンバー諸氏の出番が来ましたよ～！。

◇表紙は輪番制で寄稿をお願いいたします。

(直接お電話で or お人を通じてご連絡を取らせていただきます。)

◇みなさまの「問題提起・提案」も含めて「感動・感激」を受けたことなどを、どんどんと投稿下さい。お待ちしております。

◇春は名のみ風の寒さよ…手洗い・うがい・適度な休養で、どうぞ御自愛ください。

Y/y